

市民ネットワークちば



湯浅美和子



山田京子

「市民ネットワーク」市議

発行責任者 坪井はるか

編集・発行 市民ネットワークちば 〒260-0013 千葉市中央区中央 4-10-11 TEL043-201-2551 FAX043-223-7701

特集

学校の防災

東日本大震災を経験し、私たちは暮らしのさまざまな面で防災について考え、備えなければならぬことを痛感します。今回は子どもたちの命を守る学校の防災について考えてみたいと思います。そこで、教育委員会でお話を伺いました。

東日本大震災の経験をもとに、今年6月に、教育委員会から千葉市立小中学校、特別支援学校に対し、児童生徒が学校にいるときに震度5弱以上の地震が発生した場合は、原則として

- ①児童生徒は学校で保護する
- ②保護者に直接引き渡して下校させる
- ③登下校中に大地震が発生した場合、学校に向かう等の対策をとる

という指針が出されました。



学校の建物って安全なの？

千葉市立の小中学校、特別支援学校の校舎・体育館は、震度7程度の揺れでも倒壊しないレベルの強度にするための補強工事が順次行われており、平成27年度までに完了する予定です。現在の耐震化率は校舎が75.1%、体育館が51.7%です。工事にかかる予算は今年度が19億円程度、一般予算に占める割合は0.5%です。平成27年度までの完了を目指して来年度からはペースを上げて毎年30億40億円を計上しなければなりません。

緊急時の連絡は？



児童生徒の引き渡しなど緊急時の連絡に、これまでの電話連絡網に加えて携帯メールを利用するシステムが導入され、市立小中学校、特別支援学校178校のうち158校で採用されています。これは、あらかじめ登録した保護者に緊急時の連絡がメール配信されるというものです。教育委員会からの通知や学校ごとに収集した情報をもとに各学校の判断で送信されます。学校によっては災害時のみならず不審者情報や運動会中止の連絡などに活用しているところもあるようです。

こんな声がありました



緊急メールが届かない!!

本年9月21日の台風15号の接近で暴風警報が発表されたときには、授業の打ち切り、下校時刻繰上げと児童生徒の引き渡しなどについて実際に緊急メールが送信されました。しかしこのとき、メールが集中してサーバーの送信能力を超え、保護者に届くまでに長時間を要し、一部の学校では夕方になってメールが届いた例もありました。また携帯会社によっても差があったようです。これを受けて教育委員会では、サーバーの能力を上げてもうらうなど、技術的な問題の解決を進めると同時に、文書や学校ホームページの活用などメール以外の方法との併用を検討しています。

子どもたちを守る地域づくり

携帯メールはどこにいても情報が受け取れるため、保護者にとっては心強いものです。保護者が帰宅困難になったときに学校への連絡が取れない可能性はありますが、子どもは無事に学校で守られています、と知るだけで安心感が違います。

また、前号でとり上げた避難所運営委員会についてもマニュアル作りが進められているようですが、子どもたちの命を守り、避難所ともなる学校の建物については速やかな耐震工事を求めます。家族の中で、さまざまなケースで被災したときにどうするかを話し合っておくことはもちろん大切ですが、それと同時にシステムだけに頼るのではなく、保護者と学校のつながりの力で、子どもたちを地域で守ることが必要です。

(文責 高橋)

内部被ばくを避けるために

・・・安田節子さんの講演会に参加して・・・

安田節子さんの講演には、放射線による被ばくを心配する若いお母さんが多く参加してくださいました。特に食品からの内部被ばくについては、質問も多く関心の高さが感じられました。

内部被ばくは飲食、呼吸、皮膚、傷口より受け、人体のさまざまな臓器に影響し、長い間被ばくすることが心配されます。日本の基準が外国の値に比べ高く、基準値以下なら安心という保障はないということです。

では、どうすれば取り込みを防ぎ、排泄を促すのかと話が進んだ時には、会場内は静まり熱心にメモを取る人が多く見られました。

ストロンチウム、セシウムは水溶性であるため、水や酢で洗う、ゆでる、煮る。また、食品の中に含まれている水分を出すよう塩を振る、酢に漬けるなど、調理の仕方でも除去されるということです。

放射性物質を取り込みにくくする

には、ミネラルをしっかり摂ること、また排泄を促す食事としては日本食がお薦めで、味噌などの発酵食品や納豆、漬物などがよく、川魚より海の魚など、具体的にお話ししてくださいました。

そして、店で食品を手にする時には産地はどこか、使っている材料は大丈夫かなど、不安なことは自分でしっかりメーカーや店に聞くことが社会を動かし、声を上げて関心の高さを皆で示していくことが大切だと締めくくられました。

(判治)



事務所移転のお知らせ

お知らせ

市民ネットワークちばは、今年4月の統一地方選挙で美浜区、若葉区で市議各1議席を得ただけに終わりました。現在2人の会派として議会活動を行ってまいります。議員報酬からの寄付が活動費の多くの部分を占める団体として、今までのように、各区に事務所を置くことは困難になりました。中央、稲毛、花見川の各ネットでは、厳しい中これまでの事務所を維持してきましたが、この12月をもって閉鎖いたします。美浜区の事務所も近く移転を考えています。今後は市民ネットワークちばの事務所を中心に各区の力を合わせ、新たな市民ネットワークちばの活動を創っていきたく考えています。ご意見、ご相談など、これまでどおりお寄せくださるようお願いいたします。

(市民ネットワークちば 代表 坪井はるか)

市民ネットワーク「連続学習会」

市民ネットワークでは、東電福島第1原発の事故を受け、原発や放射能について連続の学習会を開催しています。

原発事故は収束できず、冷水循環でようやく100度以下を保っている状態です。この間、気象条件によって放射能に汚染された地域の広がりが明らかになり、福島第1原発から遠くても、土壌や食品の汚染が見つかっています。特に放射能の危害を受けやすい子どもたちを放射能から守るために、また、未来に原発を残さないために、私たちはどう対応していけばいいのかを学び、行動していきたいと思っています。

これまでに開催した学習会

- 6月「原発事故はなぜ起きたのか・今後どうなるのか」もんじゅ訴訟弁護団/弁護士 福武公子さん
- 9月「原発に頼らない社会を実現しよう」環境活動家 田中優さん
- 11月「放射能と食品汚染」食政策センタービジョン21代表 安田節子さん